



農林水産省大臣官房統計部

7月末より
運用開始

「みのりボイス」 参加者募集中

田んぼの“今”を、みんなで共有しよう

「みのりボイス」とは、スマホで田んぼの情報を投稿・共有できる、**無料**のオンラインコミュニティ「**水稻情報共有コミュニティ**」です。



「みのりボイス」に参加すると

1. 周囲の“変化”に、いち早く気づける

病虫害・気象被害・生育の遅れなど、地域で今起きていることを**地図で確認（地図機能は8月末開始予定）**。先手を打って、自分の田んぼの管理や営農の判断にすぐ活かします。



2. かんたん投稿

田んぼの状況をスマホですぐ投稿（生育・病虫害・気象被害・鳥獣害など）



3. 天気・お米ニュース

農家向けの天気予報やお米・農業ニュースをチェック



4. 投稿履歴の確認

自分の過去の投稿をマイページでいつでも確認

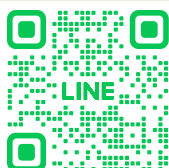
✓ 安心して参加できます

ニックネームで参加でき、本名は不要です。
投稿地点は**郵便番号**をもとにした**代表地点**。
個人を特定しにくい形で扱います。

あなたの投稿が、**水稻収穫量調査**を支える

田んぼの変化は、地域や時期によって大きく異なります。
生産現場から寄せられるリアルタイムな情報が、地域の状況をきめ細かく把握し、農林水産省の実施する「**水稻収穫量調査**」の精度向上につながります。

参加方法



公式LINEで登録

- ① 二次元コードを読み取る
- ② ニックネーム・メール・郵便番号を登録
- ③ 田んぼの状況を投稿



「キラリ」☆
現場にて

－ 妥協のない商品づくりで、トップレベルの品質を追求 －

加東市 有限会社ブリランテ（前川牧場）

加東市で、酪農とジェラート店「ブリランテ」を経営する前川牧場の前川重裕さんにお話を伺いました。

🍦 ジェラート店をオープンしたきっかけは？ 🍦

牧場の経営者である父親が、生乳を有効活用するとともに、新たな事業にチャレンジしたいと考え、1999年にジェラート店「ブリランテ」をオープンしました。



ジェラート各種
一番人気は「ミルク」
(画像提供：有限会社ブリランテ)

🍦 お店の特徴は？ 🍦

牧場で搾乳したブラウンスイス種の生乳を主原料に、ジェラートやチーズバターサンドなどを製造し、店舗とオンラインで販売しています。ジェラートは常時10種類を揃え、季節ごとに栗、焼き芋、黒豆きなこなど、地元加東市を始め、兵庫県産の農産物を使用した限定フレーバーも展開しています。



店長の前川重裕さん

「チーズバターサンド」
原材料を厳選し、素材
の良さを引き出した。



(画像提供：有限会社ブリランテ)

🍦 今後の目標は？ 🍦

ジェラートの魅力を適切に評価していただける新たな取引先の開拓を目指しています。また、屋外でピザなどの料理を楽しめる空間を整備し、農村ならではの魅力を満喫できる場を作っていきたいと考えています。



営業時間：12:00～17:00
定休日：月曜日・火曜日



農産物の環境負荷低減の「見える化」

～温室効果ガス削減への貢献と生物多様性保全への配慮～

見る × 選べる
みえるらべる

ご存じですか

第2回「私たちの食卓と地球のつながり」

毎日の食事と地球環境は、深くつながっています。食べ物が育ち、運ばれてくるまでの過程で、多くのCO₂が排出されており、実は世界の温室効果ガスの約3分の1が、食料の生産・流通に関係しているといわれています。

▶ 身近な食材で考えてみよう

田んぼから発生するメタンガス、家畜の消化過程での排出、ハウス栽培の加温燃料など、実は身近な食材にも環境負荷が潜んでいます。旬の時期に旬の野菜を選ぶだけでも、環境にやさしい行動になりますよ。

「自分ひとりでは意味がない」と思っていませんか？多くの消費者が少しずつ環境に配慮した食材を選ぶことで、その影響はとても大きなものになります。毎日の食卓での小さな選択が、地球の未来を変える力を持っています。



副地方参事官

農福連携を現場で実践・アドバイスできる専門人材に

令和8年度

農福連携技術支援者育成研修 受講者募集

兵庫県開催・農林水産省認定

受講申込締切 令和8年9月7日(月)17時

詳しくは
こちらから▼



兵庫県
ウェブサイト
QRコード



環境保全に配慮した農業に取り組む農家さんのご紹介

農業生産法人 (有)新家青果 代表取締役 新家 春輝 さん

取組の紹介

気候変動に対応できる農法を探求し、地域に還元したい！

有限会社新家青果は、淡路島を拠点にたまねぎの卸売り販売を中心に行っている会社です。



【新家 春輝さん】

有機栽培に取り組むなかで、作物の味の要因が栽培方法にあると気づき、有機栽培の技術を慣行栽培に応用した、糖度が最低9度以上（過去最高は15.7度）のたまねぎ「あたまちゃん」（商標登録）等を開発。今では、同社に出荷する農家200戸のうち、50戸が「あたまちゃん」を生産しています。

企業が農業に参入する意義として、品質や栽培方法等の研究・開発を企業が担い、得た知見を農家に還元することが重要だと考えています。



【有機栽培のたまねぎ】



【自社の有機JASほ場】

農業生産法人として、「淡路島のたまねぎを守りたい」をスローガンに「消費者を裏切らない・喜んで頂きたい」を一番大切に考え、自社で栽培するたまねぎ（6.5ha）は全て有機JAS認証とGLOBAL GAPの認証を取得しています。

お客様に本当の安心・安全と美味しいたまねぎをご提供出来るように日々取り組んでいます。

また同社は、たまねぎの栽培・保管・流通の各段階で発生しているCO2排出量を可視化（CFP＝カーボン・フット・プリント）し、脱炭素経営に向けたチャレンジに取り組んでおり、南あわじ市にある玉葱貯蔵用冷蔵庫では、電気使用量の約40%を自社の太陽光で賄い、残り60%はCO2ゼロ電力を購入するなど、CO2削減の取組も行っています。

このような、グリーンエネルギーの活用や環境保全型農業の取組等により「ひょうご産業SDGs認証事業」で、「ゴールドステージ」の認証を兵庫県知事より受けております。

同社はこれからも、地域と環境に配慮した持続可能な取り組みを推進してまいります。

簡単な経営概況
・たまねぎ 6.5ha





神戸市西区 神戸トマト園ハレいろ 田村 彩花 さん —こだわりのトマトで感動を届けたい！—



神戸市西区でトマトを栽培する、神戸トマト園ハレいろの田村 彩花さんにお話を伺いました。

—農業を志したきっかけ—

幼い頃から農業が身近な環境で育ちました。大学では農学を専攻し、卒業後の社会経験を経て、自分が納得できるまで仕事に向き合いたいと考えるようになりました。

そうした中で、栽培から経営まで一貫して携われる農業に魅力を感じ、就農することを決意しました。

トマトを選んだのは、栽培方法を試行錯誤するうちに、自分にもできるという手応えを感じ、本格的に挑戦したいと考えたからです。



田村 彩花さん

兵庫楽農生活センターでの研修を経て、お客様と直接関わることのできる環境に魅力を感じ、神戸市を就農地を選びました。

アップルベリー

—現在取り組んでいること—

現在は、ミニトマトの「プチぶよ」、「アップルベリー」と大玉トマトの「エンペラー」を栽培しています。

環境制御システムを導入し、温度や湿度等をデータで管理することで、安定した品質を実現しています。甘さはもちろん、皮の薄さや青臭さを抑えた味わいにもこだわり、トマト本来のおいしさを日々追求しています。

採れたてのトマトは、ハウス併設の直売所「ハレいろトマトショップ」等で販売しています。また、リピーター向けに実施している収穫体験も好評です。

「こんなに野菜がおいしいと思ったのは初めて」といった声が、何よりの励みになっています。

—今後の展望—

ジャムやマフィンをはじめとする加工品への活用などトマトの新たな楽しみ方を提案していきたいです。

今後も一つ一つの課題に向き合いながら、持続可能な経営の実現を目指し、挑戦を続けていきます。

詳細はこちらから



神戸トマト園ハレいろ
ウェブサイト

Instagram

農林水産物・食品の輸出額が過去最高水準！「日本茶」が新たにGI登録も



；農林水産省プレスリリース；



◀2026年
上半期
輸出実績

日本茶含む
3 産品をGI登録▶



農林水産省は8月4日、2026年1～6月（上半期）の農林水産物・食品の輸出実績を公表しました。輸出総額は8,977億円、前年同期比で10.9%増（+880億円）と好調な伸びを示し、上半期の輸出額として過去最高となりました。

また、品目別では、特に緑茶が前年同期比で83.5%増（+220億円）と高い増加率を記録。7月10日には、初めて、日本国を生産地とした「日本茶」が地理的表示（GI）として新規登録されたことから、品質や産地の信頼性が国際的に保護され、今後さらなる輸出拡大が期待されます。

地 方 参 事 官 ホ ッ ト ラ イ ン

農政に関するご相談、事業や制度へのご意見・ご質問などがございましたら、お気軽に地方参事官ホットラインまでお問い合わせ下さい。また、広報誌に対するご意見等もお待ちしています。

TEL : 078-331-5924 Email:hyogo28_hsatt_kinki@maff.go.jp